**大阪の概要3**

**■経済**

●全国で２番目の規模で、バングラデシュと同程度

　令和２年度の大阪府の名目府内総生産は39兆7,203億円で、国内総生産の7.4％を占めています。これは、東京都の109兆6,016億円に次いで全国で２番目に多く、バングラデシュに相当する規模です。

　産業大分類別府内総生産（名目：構成比）では製造業が最も高く（17.5%）、２位は卸売・小売業（14.7%）であり、この２分野で３割以上を占めています。

　近年では「専門・科学技術、業務支援サービス業」や「保健衛生・社会事業」が伸びており、新たな成長産業として期待されています。

**■主な産業拠点・集積エリア**

●ものづくりや医療関連産業の拠点を形成

　大阪府内には、従業者４人以上の製造業の事務所が14,412あり、全国シェア8.1%（令和３年経済センサス活動調査）と愛知県に次いで全国２位となっており、日本のものづくりを支えています。

　また、大阪を中心として関西には、大学や研究開発拠点が集積し、海外との共同研究を含む産学の連携が進んでおり、ライフサイエンス分野での基礎研究から応用研究、実用化研究を支える世界的な研究も行われています。大阪府では医療機器の生産額が、平成22年以降大きく増加するなど、ライフサイエンス分野の成長が顕著です。

　研究開発拠点の彩都、複合医療産業拠点の健都、産学連携で再生医療の産業化などをめざす未来医療国際拠点（愛称：中之島クロス）など、成長産業である健康・医療関連産業、環境・新エネルギー産業や、最先端の研究開発の拠点の形成が進んでいます。

**■観光**

●外国人旅行者は回復傾向

　令和元年の大阪府の訪日外国人旅行者数は過去最高の1230万人を記録、平成24年から８年連続で増加しました。

　その後、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、訪日外国人旅行者数は一時的に大きく落ち込みましたが、令和５年には、国内への訪日外国人旅行者数が新型コロナウイルス流行以前の水準にまで回復してきています。大阪府内にも多くの訪日外国人旅行者が訪れており、以前の活気を取り戻しつつあります。

**■在留外国人**

●在留外国人は全国３位、留学生は全国２位

　大阪府における在留外国人は、令和３年12月末時点で、246,157人（全国の8.9％）で、東京都、愛知県に次ぐ多さとなっており、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、増加傾向にあります。

　特に、留学生数は、令和３年５月１日時点で、21,783人（全国の９％）で、東京都に次ぐ全国２位となっています。出身地域では、中国からの留学生が多く、全体の約43％、次いでベトナム32％、韓国５％、インドネシア４％となっています。

**■国際会議**

●大阪・関西万博開催やIR開業などに伴う増加に期待

　国際会議の開催件数は「G20大阪サミット」等の開催により、令和元年に過去最高の300件となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和２年は前年比で約９割減の23件となるなど大きく落ち込みましたが、令和４年以降は、入国制限の緩和等により回復傾向にあります。今後、大阪・関西万博開催やＩＲ開業などに伴い、国際会議の増加が期待されます。